

WebARENA SuitePRO V3
迷惑メールフィルタ
バージョンアップマニュアル

2016.9.15

株式会社 NTTPC コミュニケーションズ

WebARENA テクニカルサポート

◇はじめに

1. 概要

本書では、SuitePRO V3 にて提供している迷惑メールフィルタのバージョンアップ手順について案内しています。

なお、この手順につきましては、迷惑メールフィルタ機能について、オンラインマニュアルの内容通りに設定されていることを前提条件とします。

<http://web.arena.ne.jp/support/suiteprov3/manual/centos5/postfixfilter.html>

※ 本バージョンアップにより、迷惑メールフィルタのベースとなる Postfix のバージョンは 2.5 から 2.8 となります。

2. 万一のためのバックアップについて

今回は、万一のために切り戻し手順もご用意しておりますが、バックアップオプションをご契約のお客さまにおかれましては、ディスクイメージごとの切り戻しも可能です。あわせてご検討ください。

<http://web.arena.ne.jp/support/suiteprov3/spec/backup.html>

¥

◇事前準備

1. インストールされているバージョンの確認

現在インストールされている Scanmail のバージョンを確認します。

rpm -qa scanmail

scanmail-4.9-antispam_SMTPAUTH_TLS

→バージョンアップが必要です

scanmail-4.10-8_sasl_auth_postfix

→最新版の scanmail がインストールされています。

rpm -qa sbassdk

sbassdk-6.10-0.i386

→バージョンアップが必要です

sbassdk-10.5-0

→最新版の sbassdk がインストールされています。

※ sbassdk および scanmail のバージョンの結果が次のとおり両方最新版の場合は、以降の作業をする必要はありません。

sbassdk-10.5-0

scanmail-4.10-8_sasl_auth_postfix

※ その他の場合は、結果を記録し以降の手順を実行してください。

2. バージョンアップ用ファイルの準備

バージョンアップに必要なパッケージをダウンロードします。

※アクセス制限をかけているため、必ずご利用の仮想専用サーバーからダウンロードしてください。

(1) 管理者(root)権限で仮想専用サーバーへ SSH 接続します。

(2) パッケージをダウンロードします。

```
# cd /root
```

```
# wget http://111.89.177.91/scanmail410-complete.zip
```

(3) パッケージを圧縮解凍します。

```
# unzip scanmail410-complete.zip
```

<参考：パッケージの詳細>

- Scanmail RPM
/root/scanmail410/scanmail-4.10-8_sasl_auth_postfix.i386.rpm
- SBAS SDK
/root/scanmail410/sbassdk-10.5-0.i386.rpm
- Scanmail インストールのための CentOS での必須 rpm
/root/scanmail410/db4-4.3.29-10.el5_5.2.i386.rpm
/root/scanmail410/pcre-6.6-9.el5.i386.rpm
- Scanmail 設定ファイル
/root/scanmail410/conf/scanmail.cfg-410
- Scanmail 設定ファイル
/root/scanmail410/conf/bmi.xml-410
- ログローテート用ファイル
/root/scanmail410/conf/scandb
- 切り戻し用バックアップファイル
/root/scanmail410/backup/sbassdk-6.10-0.i386.rpm
/root/scanmail410/backup/scanmail-4.9-antispam_SMTPAUTH_TLS.i386.rpm

◇Scanmail バージョンアップ

1. 既存 Scanmail のアンインストール

Scanmail のバージョンアップは、既存の Scanmail をアンインストールしてから最新のバージョンをインストールします。

- (1) 管理者(root)権限で仮想専用サーバーへ SSH 接続します。
- (2) postfix、scandb プログラムを停止します。

```
# service postfix stop
```

```
# /etc/init.d/scandb stop
```

- (3) 既存設定のバックアップ
アンインストールを実施する前に関連ファイルをバックアップします。

```
# mkdir -p /root/scanmail410/backup/
```

```
# mkdir -p /root/scanmail410/backup/alertmsg
```

```
# mkdir -p /root/scanmail410/backup/postfix
```

```
# mkdir -p /root/scanmail410/backup/scanmail
```

```
# mkdir -p /root/scanmail410/backup/sbassdk
```

```
# cp -p /etc/scanmail.cfg /root/scanmail410/backup/
```

```
# cp -p /etc/scandb_msg.txt /root/scanmail410/backup/
```

```
# cp -p /etc/alertmsg/*.txt /root/scanmail410/backup/alertmsg/
```

```
# cp -pr /etc/postfix/* /root/scanmail410/backup/postfix/
```

```
# cp -pr /etc/scanmail/* /root/scanmail410/backup/scanmail/
```

```
# cp -p /usr/local/lib/* /root/scanmail410/backup/sbassdk
```

(4) 既存の Scanmail をアンインストールします。

```
# rpm -e scanmail
```

※依存関係でアンインストールできない場合は 強制的にアンインストールを実施してください。

```
# rpm -e --nodeps scanmail
```

2. 関連パッケージの確認・追加

CentS 5 上にて Scanmailv.4.10 をご利用になるためには、こちらのパッケージがインストールされている必要があります。

※ScanMail は 32bit アプリケーションです。

バージョンアップにあたり、64bitOS 上でもご利用になられる場合も必ず 32bit パッケージが必要となります。

- db4
- openldap
- libstdc++
- pcre

① db4 の確認

```
# rpm -qa --qf '%{name}-%{version}-%{release}-%{arch}.rpm%n' | grep db4
```

結果に次のフォーマットで表示されていれば、インストールされています。

```
db4-<バージョン名>.i386.rpm
```

```
例) db4-4.3.29-10.el5_5.2.i386.rpm
```

次のように 64 ビット版の表示では 32 ビット版がインストールされていません。

```
db4-<バージョン名>.x86_64.rpm
```

```
例) db4-4.3.29-10.el5_5.2.x86_64.rpm
```

64 ビット版のみのインストールまたは何も表示がされない場合は次のコマンドでインストールします。

```
# rpm -ivh /root/scanmail410/db4-4.3.29-10.el5_5.2.i386.rpm
```

または

```
# yum install -y db4.i386
```

② openldap の確認

```
# rpm -qa --qf '%{name}-%{version}-%{release}-%{arch}.rpm%n' | grep openldap
```

結果に次のフォーマットで表示されていれば、インストールされています。

```
openldap-<バージョン名>.i386.rpm
```

```
例) openldap-2.3.43-28.el5_10.i386.rpm
```

③ libstdc++ の確認

```
# rpm -qa --qf '%{name}-%{version}-%{release}-%{arch}.rpm%n' | grep libstdc++
```


結果に次のフォーマットで表示されていれば、インストールされています。

```
libstdc++-<バージョン名>.i386.rpm
```

```
例) libstdc++-4.1.2-55.el5.i386.rpm
```

④ pcre の確認

```
# rpm -qa --qf '%{name}-%{version}-%{release}-%{arch}.rpm\n' | grep pcre
```

結果に次のフォーマットで表示されていれば、インストールされています。

```
pcre-<バージョン>.i386.rpm
```

```
例) pcre-6.6-9.el5.i386.rpm
```

次のように 64 ビット版の表示では 32 ビット版がインストールされていません。

```
pcre-<バージョン>.x86_64.rpm
```

64 ビット版のみのインストールまたは何も表示がされない場合は以下コマンドでインストールします。

```
# rpm -ivh /root/scanmail410/pcre-6.6-9.el5.i386.rpm
```

または

```
# yum install -y pcre.i386
```

3. sbassdk のアンインストール

既存のバージョン 6.10 をアンインストールします。

```
# rpm -e sbassdk
```

※依存関係でアンインストールできない場合は 強制的にアンインストールを実施してください。

```
# rpm -e --nodeps sbassdk
```

4. sbassdk のインストール

①最新バージョン 10.5 をインストールします。

```
# cd /root/scanmail410/
```

```
# rpm -ivh sbassdk-10.5-0.i386.rpm
```

②バージョンを確認します。

```
# rpm -qa --qf '%{name}-%{version}-%{release}-%{arch}.rpm¥n' | grep sbassdk
```

```
sbassdk-10.5-0.i386.rpm
```

※バージョン 10.5 になったことを確認します。

5. ユーザ登録の確認をします。

Scanmail (Postfix、scandb) は postfix ユーザで動作させる必要があります。

インストールする前に postfix ユーザを登録していることを確認してからインストールを行ないます。

```
# cat /etc/passwd | grep postfix
```

```
(例)postfix:x:89:89::/var/spool/postfix:/sbin/nologin
```

postfix ユーザが登録されていることを確認したら次へお進みください。

6. scanmail v4.10 インストール

①最新バージョンの Scanmail をインストールします。

```
# rpm -ivh /root/scanmail410/scanmail-4.10-8_sasl_auth_postfix.i386.rpm
```

②バージョン確認をします

```
# rpm -qa scanmail
```

```
scanmail-4.10-8_sasl_auth_postfix
```

※バージョン 4.10-8 になったことを確認します。

③ 関連ファイル(※)があることをします

```
# ls -l /usr/local/lib
```

※関連ファイル一覧

```
/usr/local/lib/bmi.xml  
/usr/local/lib/libbmiclient.so  
/usr/local/lib/libbmiclient.so.1  
/usr/local/lib/libbmiclient_loader.a  
/usr/local/lib/libbmishareddata.so  
/usr/local/lib/libicudata.so.36  
/usr/local/lib/libicui18n.so.36  
/usr/local/lib/libicuuc.so.36  
/usr/local/lib/libxml2.so  
/usr/local/lib/libxml2.so.2  
/usr/local/lib/libxml2_single.so  
/usr/local/lib/libxml2_single.so.2
```

```
# ls -l /usr/libexec/postfix
```

※関連ファイル一覧

```
/usr/libexec/postfix/anvil  
/usr/libexec/postfix/bounce  
/usr/libexec/postfix/cleanup  
/usr/libexec/postfix/discard  
/usr/libexec/postfix/dnsblog
```

/usr/libexec/postfix/error
/usr/libexec/postfix/flush
/usr/libexec/postfix/lmtp
/usr/libexec/postfix/local
/usr/libexec/postfix/main.cf
/usr/libexec/postfix/master
/usr/libexec/postfix/master.cf
/usr/libexec/postfix/oqmgr
/usr/libexec/postfix/pickup
/usr/libexec/postfix/pipe
/usr/libexec/postfix/post-install
/usr/libexec/postfix/postfix-files
/usr/libexec/postfix/postfix-script
/usr/libexec/postfix/postfix-wrapper
/usr/libexec/postfix/postmulti-script
/usr/libexec/postfix/postscreen
/usr/libexec/postfix/proxymap
/usr/libexec/postfix/qmgr
/usr/libexec/postfix/qmqpd
/usr/libexec/postfix/scache
/usr/libexec/postfix/scandb
/usr/libexec/postfix/scanmail
/usr/libexec/postfix/showq
/usr/libexec/postfix/smtp
/usr/libexec/postfix/smtpd
/usr/libexec/postfix/spawn
/usr/libexec/postfix/tlsmgr
/usr/libexec/postfix/tlsproxy
/usr/libexec/postfix/trivial-rewrite
/usr/libexec/postfix/verify
/usr/libexec/postfix/virtual

7. 設定ファイルの適用

```
# cp -fp /root/scanmail410/cfg/scanmail.cfg-410 /etc/scanmail.cfg
```

```
# cp -fp /root/scanmail410/cfg/bmi.xml-410 /usr/local/lib/bmi.xml
```

```
# chown root:root /etc/scanmail.cfg
```

```
# chown root:root /usr/local/lib/bmi.xml
```

```
# chmod 644 /etc/scanmail.cfg
```

```
# chmod 644 /usr/local/lib/bmi.xml
```

```
# cp -fp /root/scanmail410/cfg/scandb /etc/logrotate.d/scandb
```

```
# chmod 644 /etc/logrotate.d/scandb
```

```
# chown root:root /etc/logrotate.d/scandb
```

8. main.cf の編集

postfix の設定ファイル(/usr/libexec/postfix/main.cf)を開き、次の 1 行をファイル末尾に追記します。

```
# vi /usr/libexec/postfix/main.cf
```

```
追記 : always_add_missing_headers = yes
```

9. postfix、scandb の起動

```
# /etc/init.d/scandb start
```

```
# service postfix start
```

以上にて作業は完了です。

本ディレクトリ配下に保存したファイルは、迷惑メールフィルタを問題なく運用できていることを確認次第、適宜削除しても問題ありません。

```
# rm -fr /root/scanmail410/
```